

連載③
なぜ?!
税金
なな

核燃料税は原発推進? 廃止?

三木義一 / 青山学院大学教授

「核燃料税」ってなに

読者の皆さん、「核燃料税」という名の税金があることをご存じですか?

国税ではありません。地方税です。でも、どの地方にもある税ではないのです。名前から推測して、どんな自治体が課税しているか推測できませんか? そうです、原発のある自治体が電力会社に課税している税金です。

なお、この税金を地方税法でさがしても出てきません。「法定外税」といって、法律

で決められている地方税とは別に、自治体が一定の要件の下で独自の条例に基づいて課税しているものだからです。

この税金は、原発のある自治体に交付される交付金が徐々に少なくなり、しかも使途の制約がきついため、安定した財源確保をねらいとして、76年に福井県がはじめて導入したものです。その後、多くの自治体がこれに続きました(福島、愛媛、佐賀、島根、静岡、鹿児島、宮城、新潟、北海道、石川。ほかに、核燃料等取扱税、茨城、核燃料物質等取扱税)

青森、使用済核燃料税(柏崎市と薩摩川内市)。

ですからこの税金は、歴史的には、原発を認める見返りに導入されたものでした。ドイツの場合も全く同じだったようです。今年から核燃料税(Kernbrennstoffsteuer)を徴収しているのですが、これは、メルケル首相が社民党政権時代の脱原発政策を転換することを決定したためです。原発を認める代わりに、財源を出せ、ということでした。

ところが、その後、フクシマ事故が発生し、メルケル政

権は再び脱原発に戻る決定をしたのですが、課税される電力会社は「話が違う」と怒って、訴訟を辞さないとしています。そりゃ、そうかもしれませんね。

さて、この核燃料税は、例えば福井県の条例を例にとると、納税義務者は「発電用原子炉の設置者」で、「発電用原子炉への核燃料の挿入」をすると、その核燃料の価額に対して税率が適用されることとなります。原発を稼働させると税金が入る仕組みですが、核燃料の価額が下がりはじめ、稼働率も徐々に下がり、税金も非常に不安定になってきていました。

そこで、各自治体は新しい方法を模索していましたが、この7月、福井県が可決した

新しい核燃料税はその意味でとても注目されるものでした。

というのは、原発が稼働してない場合でも一定基準に基づいて課税できるようにしたからです。

具体的にいうと、従来の核燃料挿入時の価額に基づいて課税するものに加えて、核燃料を挿入しなくても、原子炉の熱出力に応じて負担してもらう基準も導入したからです。電力会社はこれにより、核燃料を挿入するとその価額に応じて負担するとともに、稼働していない場合でも原子炉の出力に応じて税を負担しなければならなくなりました。電力会社の反発も懸念されたのですが、フクシマ事故のためでしょうか、大きな抵抗はできなかつたようです。

核燃料税で脱原発？

さて、この税金をどう評価したらいいでしょうか。

他の自治体は脱原発に向けて動き出しているのに、稼働してない原子炉からも税金をとるのでは、ますます原発依存を強めるのではないか、という批判もあるようです。

確かに、この税はもともと原発を前提としてできた税金です。いわば原発設置の見返り財源です。ですから、今回のような課税強化は、フクシマ事故が起きているのに、なお原発を認める政策だとみられるかもしれません。しかし、もう少し総合的に考えると、そう単純ではありません。

まず、用途ですが、この税

は法定外普通税ですから、税収の使い方は原子炉施設に限定されていません。この税収を使って、自然エネルギー活用の方策を具体化することも可能です。要するに、これからの県の姿勢が問われることになります。

さらに、出力割というのは、単に増税のためだけに機能するわけではなさそうです。

というのは、従来は稼働していなければ税負担は生じないので、じつくり再開を待つことも可能でした。しかし、今後は稼働しなくても税負担はかかります。しかも、いったん停止すると、今後の政府の対応も慎重になり、長期間に及ぶおそれもあります。いくら電気料金に転嫁できるといっても限度もあります。

そうすると、税負担は避けたい、ということになります。避けるためには、どうすべきかわかりますか？ 簡単です。廃炉の決定をすればいいのです。廃炉の決定をすると、出力を使う可能性もなくなるのですから、福井県も課税できません。ですから、この税制は電力会社に、税負担を避けたいなら思い切って廃炉決定をしないさい、と促しているとも評価できるのです。

ですから核燃料税は、原発依存税制とも、また脱原発税制ともいえるのです。どちらの側面を福井県は強めていくのか、これは県民と政治家の判断です。この税収が、県民の幸福度の向上と原発事故被災者への支援措置に回ること。私は願っているのです。